

Cisco Secure Workload リリース 3.9.1.1 の新機能

First Published: 2023-12-22

ソフトウェア機能

このセクションでは、3.9.1.1 リリースの新機能を示します。

| 機能名 | 説明 |
|-----------------------------|--|
| 使いやすさ | |
| IDベースの可視性のフロー検索ページでのユーザの可視性 | <p>ソフトウェアエージェントは、オペレーティングシステムに応じて、フローが指定された最小期間持続する場合に限り、ネットワークフローを開始または利用しているユーザー名をキャプチャするようになりました。[調査 (Investigate)] > [トラフィック (Traffic)] ページのフロー観測には、それぞれのフローにリンクされたコンシューマとプロバイダーの両方のユーザー名が表示されます。AnyConnect コネクタは、これらのユーザ名も報告します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows 2012 以降のバージョンは、ユーザーの可視性をサポートしています。 • PID またはユーザールックアップをオンにする必要があります。 • [流動解析の忠実度 (Flow Analysis Fidelity)] が [詳細 (Detailed)] モードに設定されていることを確認します。 <p>詳細については、「Windows Agent Flow Captures: For all Windows OS excluding Windows 2008 R2」を参照してください。</p> |
| 製品の進化 | |
| Nvidia SmartNIC のエージェントサポート | <p>Nvidia BlueField データ処理ユニット (DPU) にソフトウェアエージェントをインストールできるようになりました。Nvidia のサポートにより、Cisco Secure Workload はネットワークの可視性と適用機能を強化します。</p> <p>詳細については、「Agent Support for Nvidia Bluefield Networking Platform」を参照してください。</p> |
| ハイブリッド マルチクラウド ワークロード | |

| 機能名 | 説明 |
|------------------------|--|
| OpenLDAP 用の新しい ID コネクタ | <p>ID コネクタは、ID ストアと統合するための一元化されたハブとして機能し、OpenLDAP サーバーからユーザー、ユーザーグループ、およびその他の属性をシームレスにプルできるようにします。</p> <p>詳細については、「Identity Connectors」を参照してください。</p> |
| 選択したドメインへの接続の許可とブロック | <p>Cisco Secure Workload エージェントは、サポートされているすべてのオペレーティングシステムで特定のドメイン名へのトラフィックを許可または拒否するポリシーを作成できます。さらに、フローが HTTPS_PROXY によって提供される場合、ワークロードにこれらのポリシーを適用できます。</p> <p>(注) 現在、DNS または FQDN ベースの適用は AIX ではサポートされていません。</p> <p>詳細については、「Create an Agent Configuration Profile」を参照してください。</p> |
| データのバックアップと復元 | |
| 再イメージ化を伴わないクラスタのリセット | <p>Cisco Secure Workload クラスタをリセットできます。これにより、サービスが再初期化され、データストアがクリアされます。[リセット (Reset)] オプションを使用すると、クラスタモードをプライマリからセカンダリに移行し、アクティブ状態とスタンバイ状態を切り替えたり、その逆を行うことができます。</p> <p>詳細については、「Reset the Secure Workload Cluster」を参照してください。</p> |

ハードウェアの機能

このセクションでは、3.9.1.1 リリースの新機能を示します。

| 機能名 | 説明 |
|--------------|----|
| 製品の進化 | |

| 機能名 | 説明 |
|--|---|
| M6 (Gen3) HDD ノードのハードウェア RAID (RAID 5) | <p>ハードウェア RAID は、M6 世代の Cisco Secure Workload 39RU フォームファクタでサポートされるようになりました。プラットフォームの復元力により、交換プロセスが簡単で管理しやすいため、データ損失のリスクが最小限に抑えられ、システムの可用性が維持されます。</p> <p>ネットワーク管理者は、Cisco Secure Workload RAID 設定で障害のあるディスクを交換するときに、ハードウェアコントローラの初期化が必要になる場合があります。したがって、RAID5 設定を完了した後、新しいディスクが RAID アレイに追加され、ドライブ設定が正しいことを確認することをお勧めします。</p> <p>詳細については、「Disk Maintenance」を参照してください。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none">• 障害が発生した場合、M6 39RU フォームファクタの HDD ドライブのみがホットスワップに使用できます。SSD ディスクは RAID 設定をサポートしていません。• ハードウェア RAID のサポートは、Cisco Secure Workload ハードウェア (M4/M5) または M6 8RU には適用されません。 |

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。